

2025/6/3作成



要約

ブックツーリズムとは、本をテーマにした観光のことです。本屋や図書館、文学にゆかりのある場所を巡ることで、本と人、人と人との出会いを生み出す旅のスタイルとされています。今年の5月に旅したパリとロンドンでのブックツーリズムと日本でも出来るブックツーリズムをご紹介します。本を巡る旅をしませんか。楽しいですよ。

鹿田 浅井一夫

※「参考図書」世界の美しい本屋さん

(著者 清水玲奈)

私たちの国際交流

「ブックツーリズムの勧め～パリ編」

パリは、今年の5月に訪問しました。初めてパリを訪れたのは、31年前の新婚旅行でした。いまでも異文化に触れた衝撃は忘れることができません。もう一度夫婦で行こうと思い続け、仕事を辞めた昨年の10月に続き今回で3回目となります。パリにも少し慣れたかなと思うようになり、自分の趣味である本を巡る旅(ブックツーリズム)をしようと計画しました。

このブックツーリズムとは、本をテーマにした観光のことで、個性的な本屋や図書館、文学にゆかりのある場所を巡ることで、本と人との出会いを生み出す旅のスタイルとされています。例えば、神田神保町のように、古書店が集まる地域が観光地化していることもあります。

本と旅は深い関係を持っていて人生に深い影響を与える力を持っています。読書は知識を広げ、異なる視点を提供し、想像力を刺激します。一方で、旅は実際の体験を通じて世界を知り、自分自身を成長させる機会を与えてくれます。出口治明氏(立命館**アジア太平洋大学元学長**)の著書では「本を読む」「人に会う」「旅に出る」の3つが教養を深める重要な要素であるとされています。本を読むことで知識を得て、人と交流することで視野を広げ、旅をすることで実際の体験を通じて理解を深めるという考え方です。旅先で書店や図書館を巡ることで、読書と旅の魅力を同時に楽しめるかもしれませんね。

パリで訪れた本屋は「**Shakespeare & Company**(シェークスピア・アンド・カンパニー)」でパリ5区にあり、ノートルダム大聖堂に近く、セーヌ川左岸にある歴史的な独立書店で、世界の美しい本屋20選に選ばれている書店です。

創設は、1919年にアメリカ人のシルヴィア・ビーチによって開かれ彼女の書店は、ヘミングウェイやフィッツジェラルド、ジョイスなどの著名な作家たちの交流の場となり、特に『ユリシーズ』の初版を出版したことで有名です。しかし、第二次世界大戦中に閉店しました。

現在は、1951年にジョージ・ウィットマンによって設立されました。彼はシルヴィア・ビーチの精神を受け継ぎ、若い作家たちに宿泊場所を提供する「タンブルウィード・ホステル」というユニークな制度を導入しています。

書店には1万冊以上の蔵書があり、「見知らぬ人には親切にしないで。彼らは変装した天使かもしれない」というモットーに経営されています。

この書店は、カフェも併設されており、カフェとケーキをいただき、その後書店内を回りましたが、お客さんが多くパリの人達に長年愛されているのだなと感じました。

次に訪れたのは「**フランス国立図書館リシュリユー館**」でした。パリの中心部に位置する歴史ある図書館です。1368年に王室文庫として設立され、長い歴史を持つ欧州最古級の公共図書館のひとつです。

この図書館は、「楕円形閲覧室」が特徴的で、約2万冊の蔵書を誇り、誰でも無料で利用できます。また、美術館も併設されており、ギリシャ・ローマ時代の美術品や中世の貴重な蔵書が展示されています。館内には、王室文庫時代からの所蔵品を展示するギャラリー・マザランや、ルイ15世の広間など、歴史的価値の高い空間が広がっています。カフェや庭園も整備されており、学術的な雰囲気を楽しみながら見学することができました。

特に楕円形閲覧室は登録者しか入場できませんが、観光客用に一部区域だけ入ることができ

て蓄積された蔵書に圧倒されました。

さて、今回は怒涛のロンドン日帰り旅行編を報告したいと思います。やれば出来るの気概だけで実行した今思うと無謀でしたが、忘れることの出来ない旅となりました。

また、ブックツーリズムでよい書店は日本にないのか、もっと近いところにはないのかということそんなことはありませんので、次回併せて報告したいと思います。お楽しみに。



(シェイクスピアアンドカンパニー全景)



(シェイクスピアアンドカンパニー書店前)



(シェイクスピアアンドカンパニーカフェ)



(フランス国立図書館リシュリユー館橢円形閲覧室)



(フランス国立図書館リシュリユー館橢円形閲覧室)



(フランス国立図書館リシュリユー館中庭)